

東京農大生の挑戦 in 長和町 ①

山村に活力を

長和町では、東京農業大学国際食料情報学部食料環境経済学科（東京都）と連携して同町の活性化の在り方を探る事業「山村再生プロジェクト」を行っている。これは、学生たちが同町全体を一つのフィールドとして、地域住民と協働し交流を深めながら、学生自らが山村地域の課題を把握し、解決策を考えて実践するという、地域再生・活性化の総合プランナーを目指すものだ。長和町役場産業振興課農政係に、学生たちが地域と一体となって地域再生・活性化に取り組む姿を紹介してもらう。

「山村再生プロジェクト」は2011年から行われている。これまでの実習では、特に休耕地の再生に力を入れてきた。原野化した農地を再生して年間50種の野菜や水稲を作付けし、その収穫物を使ってみそや漬物作りにも挑戦してきた。また、学生の視点で地域再生プランを作成して、町会や議会などと意見交換も行ってきた。

今年「ステップアップ元年」！。これまでの活動で、広く見聞した上で導き出された「地域活性化のカギ（提案）」をさまざまな組織・団体などと連携して、実現に向けて取り組む。13年度のテーマは「地域と繋がり、地域を育む山村再生・活性化の人材育成プロジェクト」。東京農大食料環境経済学科3年の鈴木堤さんは「本

ふるさと創生コミュニティーについて講義を受ける学生



長和町の農家が学生たちにサトイモやナガイモの畝立てを手ほどき



地域交流では、芹沢桜公園祭りで大学生たちがついた餅を参加者に振る舞い、応援団長指揮の下、東京農大「大根踊り」を披露した。学生と地域住民が一体となった瞬間だ。大学生は「普段お世話になっている地域の皆さんに『おもてなし』をすることができました」と喜んで話してくれた。

年度は新たに外部発信をする『外部発信力タチづくり部』、地域へと発信する『地域ホコリづくり部』をつくり、より多くの地域活性化に対する取り組みを行いたい」と抱負を話す。

4月の実習では、その先駆けとして、長和町グリーン・ツーリズム協議会と意見交換を兼ねた勉強場となった。

積極的に住民と交流

本年度の農作物の作付けは、少量多品目の約40種類を栽培する方針。4月はジャガイモ・ゴボウなど7種類を植え付けし、田4枚（約600平方メートル）に畦シートを張り、5月の田植えの準備が完了。他にもハーブ園・電気柵設置も行った。（長和町役場産業振興課農政係・尾美保）